





図2 生活様式の違いにより肥満の表現型が異なる

あり、近年肥満が増加している理由に挙げられている。私もこの考えはよく理解できるが、別の角度からみると元来消化管に肥満遺伝子の存在が指摘され、私達はGIPがその遺伝子と主張している。GIP分泌は高脂肪摂取が最も大きな刺激となるため、白人肥満者や肥満モデル動物では高GIP血症である。したがって元来肉食である白人はGIPの分泌が亢進し、節約遺伝子はよく発達し、脂肪摂取の少ない日本人はGIPの分泌が少なく節約遺伝子の発達は不良であるとも考えられる。これは日本人の肥満度が白人よりはるかに低いことと合致する。ヒトで遺伝子の進化や発現量にどの程度の期間を要するか(5千年～1万年位なのか、それ以上なのか)、日本人の縄文以降の生活環境が白人と比べて飢餓社会か、裕福なのかということにもよる。日本は飢饉があり貧しかったとする説と、飢饉があってもヨーロッパより少なく、稲作等により一定の食糧が確保できたので裕福であったという考えもあり、後者の方が有力視されている。このように節約遺伝子によっても同じ日本人で肥満に対する寄与の重さが正反対になる。

進化医学の面から疾病を論ずることが最近流行し、それが民族差を生ずる根拠とされている。日本人の肥満の捕え方によって(どんどん肥満している、或いは白人に比べて肥満の進行は少ない)、節約遺伝子の意義付けも異なってくる。大変難しい命題である。